

【PRIME共催白金祭特別イベント】

『ルート181』 上映会&アフタートーク



2025年11月1日(土) 11:00～18:10

受付：事前予約・10:30～／当日申込・10:45～

会場 明治学院大学白金校舎 (東京都港区白金台1-2-37)
3号館1階 3201教室

申込 要 リンクまたは右下のQRコードよりお申し込みください。

資料代 500円



映画『ルート181』は、1947年の国連決議で引かれた境界線を、パレスチナ人とユダヤ人の監督が巡りながら映し出した、人々の記憶と声の記録です。国境や民族、差別といった問題を通じ、私たちの社会に深く問いかける作品です。パレスチナで続く支配と、私たち自身の歴史や社会に重なる課題を重ね合わせ、植民地主義の過去と現在を「映像」を通して見つめ直すべく企画しました。

共催

映像でみるパレスチナと朝鮮～反植民地主義アクション(PKアクション)
明治学院大学国際平和研究所(PRIME)

プログラム

- ・ 11:00～11:10 開催の挨拶等
- ・ 11:10～12:35 「南部編」 上映
- ・ 12:35～13:20 昼食休憩
- ・ 13:20～15:05 「中部編」 上映
- ・ 15:05～15:20 休憩
- ・ 15:20～16:45 「北部編」 上映
- ・ 16:45～16:55 休憩 ※レイアウト変更
- ・ 16:55～17:55 アフタートーク
- ・ 17:55～18:10 上映を終えてのアピール



本上映会は 約4時間半の長編作品となっており、途中に昼食のためのインターバル（休憩）を設ける予定です。申込フォームよりお弁当の注文も可能ですので、是非、ご利用ください。

『ルート181』（270分）

ベルギー、フランス、イギリス、ドイツ／2003／アラビア語、ヘブライ語／カラー、モノクロ／ビデオ／270分

監督、脚本、編集：ミシェル・クレフィ、エイアル・シヴァン

撮影：フィリップ・ベライシュ

録音：リシャル・ヴェルト、サリ・エズス

製作：オマール・アルカタン、ヴェルナー・デュッチ、ミシェル・クレフィ、アラン・ボッタレリ

製作会社：モメント！

配給：シンディバッド・フィルムズ、モメント！

アフタートーク：講師略歴

①鄭栄桓氏（明治学院大学教養教育センター教授）

専攻は歴史学（朝鮮近現代史、在日朝鮮人史）。著書に『歴史のなかの朝鮮籍』（以文社、2022年）、『朝鮮独立への隘路 在日朝鮮人の解放五年史』（法政大学出版局、2013年）、『忘却のための「和解」『帝国の慰安婦』と日本の責任』（世織書房、2016年）が、編著に金泰生『私の日本地図』（琥珀書房、2025年）がある。

②高橋美香氏（フォトグラファー）

写真家。広島県府中市生まれ。世界の国々を歩き、その地に生きる人びとの「いとなみ」をテーマに撮影、作品を発表。著作に『パレスチナに生きるふたり ママとマハ』（第29回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞、かもがわ出版）、『パレスチナ・そこにある日常』『それでもパレスチナに木を植える』（以上、未来社）、写真集に『Bokra 明日、パレスチナで』（ビーナイス）がある。共著に『パレスチナのちいさいいとなみ——働いている、生きている』（パレスチナ・オリーブ代表・皆川万葉との共著、かもがわ出版）がある。11月に新刊絵本『シロくんとパレスチナの猫』（かもがわ出版）刊行予定。

お問い合わせ：明治学院大学国際平和研究所(PRIME)

■TEL：03-5421-5652 ■FAX：03-5421-5653 ■E-MAIL：prime@prime.meijigakuin.ac.jp

■URL：<http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime>